

教育研究業績

2026年 5月 1日

氏名 櫻井 薫

研究分野	学位
母性看護・母性心理	修士

研究のキーワード

産後うつ、描画

教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項

事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例	2011. 4～2016. 3 2016. 4～2025. 3 2025. 4 ～	看護専門学校での母性担当教官として母性看護の講義、演習、実習を1人または実習施設の看護師助産師と担当した。 母性看護援助論の講義を年に4コマ、演習を1コマ、領域実習指導を6グループ、統合実習指導を2人、卒業研究指導を1人担当した。 講義においては事例を紹介するなど学生がイメージしやすいよう工夫した。演習においては実習をイメージできるよう実施方法を工夫した。領域別実習においては学生が円滑にかつ最大限に学びを得られるよう配慮し、対象を理解するサポートを行った。統合実習では実習計画の立案からサポートし学生自身で考えプレゼンし、実習できるようサポートした。卒業研究では、学生が関心を持っていることについて焦点化し、研究としてまとめていけるようサポートした。 母性支援論Ⅱを担当し、講義・演習・グループワークの計画や指導を担当している。また、3年生領域実習指導、4年生へ卒業研究指導、総合実習指導を行う。
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項

事項	年月日	概 要
1 資格、免許	1996. 4. 30 1997. 4. 25 1996. 5. 27 2004. 4. 1	看護師 助産師 保健師 臨床心理士
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

(学術論文)				
妊産婦における色彩円環家族イメージ画と心理的状态との関連	共著	2017年3月	日本大学心理学研究	投映法の1つである描画の色彩円環家族イメージ画を妊産婦に実施し、描画に見られる特徴と心理指標との関連をみた。この描画は色鉛筆を用いて、対象を円であらわす家族画であり、円の大きさや用いられた色の数と心理指標との関係がみられた。このことから描画を用いた妊産婦への心理面への介入の可能性が示された。
彩色円環家族イメージ画を用いた産後の母親への心理的援助の試み	共著	2017年3月	女性心身医学	産後うつ傾向を示した褥婦に描画を用いた症例検討を行った。描画を用いることで妊産婦の心理面の把握を容易にし、妊産婦の家族も含めた心理的援助につながる可能性が示された。
褥婦と女子大生の比較からみた愛着スタイルと対児感情の検討	共著	2015年3月	日本大学心理学研究	他者との間に形成される愛着スタイルと対児感情との関係をみた。さらに愛着スタイルが対人的経験により違いがみられるか、出産後の褥婦と女子大学生との間で比較した。その結果、安定した愛着スタイルを持つことは子どもに対する肯定・受容しようとする感情に影響し、アンビバレントな愛着スタイルは子どもに対し嫌悪的になり否定・拒否しようとする感情と関連があった。またアンビバレントな愛着スタイルは女子大学生よりも褥婦の方が有意に少ない傾向があった。
産褥早期の色彩円環家族イメージ画の描線の特徴による産後の心理の経時的変化	共著	2026年予定 (2026年4月21日付受理)	臨床描画研究	投映法の1つである描画の色彩円環家族イメージ画を産褥早期の褥婦に実施した。描画にみられる描線の特徴と産褥早期・産後1か月・産後3か月の心理指標の経過について分析を行った。色彩円環家族イメージ画は母子のイメージ円を描く描画であり、描線の形態が「単線」、「複線」、「色塗り」に分かれた。描線は自我状態を反映していると考えられ、「単線」、「複線」、「色塗り」の順で産後のうつ傾向が強くみられる傾向があった。
(その他)				